

「第2回神戸市社会的養育推進にかかる検討委員会」での主な意見

○ヒアリングについて

- ・こどもたちの声が計画に反映される、参加することにメリットがあったと感じることができるようにはできないか。
- ・アンケートの項目を深掘りするような形がいいのではないか。
- ・カジュアルな感じで意見を聞くということができないか。

○こどもの権利擁護・意見表明について

- ・こどもの権利擁護に関する取組の認知度・理解度・満足度の把握ができていないので、周知の方法を具体的な検討する必要があるのではないか。
- ・意見表明支援事業は、具体的にどういうものを想定するのか。大人に対する行動や態度も、子供の意見、表現として捉えていくことも必要ではないか。
- ・声を出せない子どももいる。大きな声出せる子どもの声だけ聴いてしまうことにならないようにする必要があるのでないか。
- ・意見表明支援事業を利用しないと意見が表明できないと考えるのか、普段から聞かれているので利用しないのかは、満足度調査をやってその指標を作っていく必要があるのではないか。
- ・年々どう変わっているのかを経年で見るような指標を考えたほうがいいのではないか。

○権利ノートについて

- ・アップデートは、権利侵害されたときにSOS出せることがわかる、今の子どもたちの目線に合わせた内容にする必要があるのではないか。（SNS等の記載も必要）
- ・権利ノートを象徴的な存在として、子どもたちに権利とは何かを分かってもらうことが必要ではないか。

○アンケートについて

- ・アンケートで聞かれている内容が理解されているかを把握することが必要ではないか。

○ホームヘルプサービスについて

- ・子育て短期支援事業は、あまり利用されていないので、支援をどのように広げていけばいいか。
- ・評価のための指標で、子育て短期支援事業（リフレッシュステイ）しか載っていない。

○パーマネンシー保障・里親について

- ・施設入所しているこどもたちが、里親について、どれだけ情報を与えられているか。
- ・里親制度も一つの生き方として、暮らし方として考えてほしい。
- ・パーマネンシーの視点からも養子縁組を進めていく必要がある。
- ・代替養育に至らない予防策が一番大事。

○その他

- ・エビデンスベースで語る必要がある。地域でしんどい子どもと、社会的擁護の下で育ったその子と比較は、エビデンスを出して、反映させていく必要がある。
- ・各施設は地域資源として、要対協と連携するなど何かできることがあるのではないかな。